

開かれた窓、クロアチア

駐日クロアチア共和国大使

ドラゴ・シュタンブク

Drago STAMBUK



日本企業が中東欧への投資を始めた1990年代前半のクロアチアは戦争の最中にあったため、日本企業の進出は進まず、日本から中東欧への投資の連鎖の「失われた環」となっていました。しかし、今日のクロアチアは政治的・経済的に安定し、首都ザグレブは欧州で最も犯罪率の低い都市となっています。2005年のEU加盟交渉開始はこうしたクロアチアの安定を象徴し、2008年のNATO加盟ならびに2009年のEU加盟に向けて準備を進めています。

クロアチアは皆さまが思っているよりはるかに近い国です。日本と中東欧を結ぶ物流ルートは、アドリア海の他の港湾に比して水深が深いリエカ港を活用すれば、欧州の他の主要港、特に北海沿岸の港を経由するルートに比べて輸送期間が大幅に短縮されます。現在、2009年の完成をめざしてリエカ港の改修工事が鹿島建設により行われています。最近開通した近代的な高速道路および2012年完成予定のリエカからハンガリー国境までの新鉄道は、クロアチアを「失われた環」から「強靱な環」に変えるに違いありません。中世のクロアチアに生まれたマルコ・ポーロにとって日本は遠過ぎる国ではなかったのですから、今日の日本の投資家にとってはなおさらではないでしょうか。

日本とクロアチアは海と島の国であるという共通点に加え、自然と伝統を深く尊重する類似の国民性をもっています。また、文化やスポーツの面においても強く結ばれています。俳句はクロアチアで非常に人気があり、俳句の国際大会においてクロアチア俳人の入賞率が最も高いそうです。プライド優勝者の格闘家ミルコ・クロコップ・フィリポヴィッチ氏、ボスニア出身のサッカー日本代表監督イヴィツァ・オシム氏、卓球男子ジュニア日本代表チーム監

督マリオ・アミジッチ氏など、多くのクロアチア人が日本のスポーツ界でも活躍しています。

最近、ザグレブ大学では日本語学科が創設され、日本企業は数年後には日本語の話せる人材をクロアチアで雇用することも可能になります。クロアチアは最も安い労働力を提供できる国ではありませんが、有能で多言語を操る革新的で創意に富む労働力を提供しています。2006年、クロアチアでは科学者で発明家の故ニコラ・テスラの生誕150年を祝いました。現代のレオナルド・ダ・ヴィンチとして認められつつある彼は交流電気を発明し、無線通信および無線エネルギー輸送の基礎を築いた天才であり、電気学および磁気学の分野で750もの特許を取得しました。最近ではニコラ・テスラの後継者でクロアチアの若き研究者であるマリノ・ソリャチッチ氏が率いるマサチューセッツ工科大学の研究チームが、無線でのエネルギー輸送に成功し、2m離れた2つの誘導コイル間で電気の流れを起し、電球を点灯させました。このように有能な人材を輩出しているクロアチアでは、知識を基礎においた社会をめざし、さらに教育に力を入れるべく、近々、高等教育を義務化する予定です。

6つの世界遺産をもち、作家バーナード・ショーが「地上の楽園を見なければ、ドゥブロヴニクに足を運ぶがよい」と描写し、アドリア海の真珠とよばれているドゥブロヴニクや、著名な海洋学者ジャック・クストーが「外から見ても、中から見ても世界でいちばん美しい海」と呼んだアドリア海を誇るクロアチアは、正に「美への窓」です。そればかりでなく、クロアチアは「ビジネスチャンスおよび投資機会への窓」でもあるのです。